

項目	重点目標	評価の観点・目標指数	回答者	判断基準	R4 %	R3 %	成果と課題	改善策・向上策
1.確かな 学力と探究 力の醸成	生徒が主体的 に学び、考えを 話し合う授業 を推進する。	(取組指標) 授業研究会や研修会で研鑽を積み、 ipadの活用、課題の明確化、協働学 習、学習の振り返り等を取り入れた学習 指導の工夫改善に取り組む。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	教職員	私は、生徒が授業に主体的に取り組むために、ipadの活用、課題の明確化、協働学 習、学習の振り返り等を取り入れた学習指導の工夫改善に 〔1〕 積極的に取り組んでいる。 〔2〕 ある程度取り組んでいる。 〔3〕 あまり取り組んでいない。 〔4〕 全く取り組んでいない。	97.6	82.8	前年度よりも、学習指導の工夫改善 に取り組む教職員の割合が増え、ほ ぼすべての教職員が学習指導の工 夫改善に取り組むようになった。	学習指導の工夫改善について、教科 内での連携に留まらず、現職教育の 実施や、教科間の連携、学習部会の実 施を積極的に行う。
		(成果指標) 「学びたい」「知りたい」「できるようになり たい」という気持ちをもって授業に参加し ている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	生 徒	私は、「学びたい」「知りたい」「できるようになりたい」という気持ちをもって授業に 〔1〕 参加している。 〔2〕 だいたい参加している。 〔3〕 あまり参加していない。 〔4〕 ほとんど参加していない。	1年 97.3 2年 96.7 3年 97.5 全体 96.8	1年 99.2 2年 97.3 3年 96.7 全体 97.8	前年度から継続して、ほぼすべての生 徒が授業に前向きな気持ちで取り組 んでいる。	〔3〕〔4〕と答えた生徒へは、学級担任 が該当生徒に個別に相談に乗り、教 科担任と連携を取りながら、前向きな 気持ちで授業に参加できるよう支援す る。
		(満足度指標) 私の子どもは、「学びたい」「知りたい」「で きるようになりたい」という気持ちをもって 学習に取り組んでいる。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が70%以上	保護者	私の子どもは、意欲的に授業や家庭学習に 〔1〕 取り組んでいると感じる。 〔2〕 ある程度取り組んでいると感じる。 〔3〕 あまり取り組んでいないと感じる。 〔4〕 全く取り組んでいないと感じる。	1年 77.2 2年 73.8 3年 75.9 全体 74.7	1年 61.2 2年 60.0 3年 65.9 全体 62.4	前年度に比べ、どの学年でも数値が 大幅に向上している。従来は強制力 を伴う宿題が家庭学習の中心だった が、生徒自身が家庭学習の課題を 自ら考え、工夫するようになったことが 要因のひとつでないかと思われる。	授業での学習指導の工夫、改善と並 行し、生徒が授業で学んだことを自ら の学習につなげられるよう、学習部 を中心に各学年の学習担当者同士が 連携し、学年・学級での支援を行う。
1.確かな 学力と探究 力の醸成	読書活動 （新聞を含 む）やICTを 利用した調べ る態度の習慣 化を図る。	(取組指標) 図書室利用などを通した読書活動や、 ipadなどを活用した調べる活動の指導 に取り組む。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	教職員	私は、図書室利用などを通した読書活動や、ipadなどを活用した調べる活動が習慣 化するよう 〔1〕 しっかり取り組ませている。 〔2〕 だいたい取り組ませている。 〔3〕 あまり取り組ませていない。 〔4〕 全く取り組ませていない。 R3年度私は、朝読書や図書室利用などを通して、 読書活動が習慣化するよう 〔1〕 しっかり取り組ませている。 〔2〕 だいたい取り組ませている。 〔3〕 あまり取り組ませていない。	82.7	96.6	従来の読書指導が学級担任による 朝読書に依存していたと考えられる。 読書指導の在り方は改善が必要で ある。	教師主導でなく、生徒自身が企画す る読書推進を重視する。具体的には 図書委員会の活動を学校全体で支 援する体制を作る。また、その活動に ついては図書担当者と学習部が連携 して行う。
		(成果指標) 私は、図書室利用などを通した読書活 動やipad等の活用を通じて、疑問の解 決のために必要な情報を収集して探究 しようとしている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が80%以上	生 徒	私は、読書（新聞を含む）やipad等の活用を通じて、疑問の解決のために必要な情 報を収集し 〔1〕 探究しようとしている。 〔2〕 ある程度探究しようとしている。 〔3〕 あまり探究しようとしていない。 〔4〕 全く探究しようとしていない。 R3年度私は、朝読書や図書室利用などを通して、 読書活動を 〔1〕 楽しんでいる。 〔2〕 ほぼ楽しんでいる。 〔3〕 あまり楽しんでいない。	1年 77.1 2年 90.0 3年 95.0 全体 90.3	1年 86.3 2年 81.9 3年 89.9 全体 86.2	2・3 学年ともに前年度より数値が 上昇し、目標数値を超えている。1 学年も探究的な活動を継続し、各 教科個々の情報収集スキルが十分 に育てば、目標に達すると思われる。	今後も探究的な学習を継続するほ か、情報収集に時間がかかる生徒へ の個別の支援や、グループ活動が活 発に行えるよう、担当の教師が丁寧な 指導を心がける。
		(満足度指標) 私の子どもは、読書やインターネットを用 いた情報収集に取り組んでいる。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が60%以上	保護者	私の子どもは、読書（新聞を含む）やインターネットを用いた情報収集に 〔1〕 取り組んでいると感じる。 〔2〕 ある程度取り組んでいると感じる。 〔3〕 あまり取り組んでいないと感じる。 〔4〕 全く取り組んでいないと感じる。 R3年度私の子どもは、家庭で習慣的に読書（新 聞を含む）を 〔1〕 している。 〔2〕 ほぼしている。 〔3〕 あまりしていない。	1年 68.2 2年 64.3 3年 62.1 全体 64.5	1年 22.4 2年 17.7 3年 17.1 全体 19.2	スマホやタブレットなどの情報端末が 子どもたちの生活に普及し、情報が集 めやすくなった一方、書籍や新聞など の紙媒体によって情報を得る機会は 減少していると考えられる。	読書推進活動やNIEによる学習を今 後も継続し、紙媒体からの情報収集 スキルの向上を図りたい。

項目	重点目標	評価の観点・目標指数	回答者	判断基準	R4 %	R3 %	成果と課題	改善策・向上策
2.社会への 貢献心と自 立性の伸 張	仲間意識を高 め、人権教育 を推進すると ともに、不登校 やいじめの未 然防止・早期 対応に努め る。	〔取組指標〕 生徒が安心して学校生活を送るために、 人権教育を推進するとともに、いじめの 防止や早期発見・対応及び不登校への 対処に取り組む。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	教職員	私は、生徒が安心して学校生活を送るために、人権教育を推進するとともに、いじめの 防止や早期発見・対応及び不登校への対処に 〔1〕 積極的に取り組んでいる。 〔2〕 ある程度取り組んでいる。 〔3〕 あまり取り組んでいない。 〔4〕 全く取り組んでいない。	100	100	・毎月の生徒指導計画等を通して、 全校において多様性を尊重する態度 の育成を図った。	・今後も多様性を尊重する生徒の育 成を図るため、指導の機会を生徒指 導計画に位置づけていく。
		〔成果指標〕 私は、安心して学校生活を送ることが できている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	生徒	私は、安心して学校生活を送ることが 〔1〕 できている。 〔2〕 だいたいできている。 〔3〕 あまりできていない。 〔4〕 全くできていない。	1年 90.2 2年 91.0 3年 97.4 全体 92.9	1年 95.4 2年 99.1 3年 99.1 全体 97.7	・90%を超える生徒が肯定的な回 答をしているが、全体として5ポイント 減少した。 ・コロナ禍に係る不安を回答した生徒 もいると思われる。	・年3回の教育相談アンケート及び面 談を継続して実施し、生徒の悩みを 早期に把握し、いじめの未然防止や 不安の解消に努める。
		〔満足度指標〕 私の子どもは、安心して学校生活を送る ことができている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	保護者	私の子どもは、安心して学校生活を送ることが 〔1〕 できていると感じる。 〔2〕 だいたいできていると感じる。 〔3〕 あまりできていないと感じる。 〔4〕 全くできていないと感じる。	1年 95.4 2年 90.5 3年 96.6 全体 93.5	1年 87.7 2年 94.3 3年 92.7 全体 91.2	・保護者は昨年比+2ポイント。特 に1年生保護者の満足度が高い。	・アンケート等を活用し、家庭におい て、学校生活の楽しみや不安なこと について話し合う機会を創出する。
2.社会への 貢献心と自 立性の伸 張	自ら考え行動 する態度や自 治力を育成 し、生徒が主 体の活動を推 進する。	〔取組指標〕 生徒が諸活動（生徒会・学級・部）を 主体的に運営できるように、協働して取 り組む態度の育成に取り組む。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%	教職員	私は、生徒の主体的な活動を推進するため、仲間と協働して取り組む態度の育成に 〔1〕 積極的に取り組んでいる。 〔2〕 ある程度取り組んでいる。 〔3〕 あまり取り組んでいない。 〔4〕 全く取り組んでいない。	100		・生徒が主体の活動となるよう学校 祭、常任委員会等への取り組み方 を見直すことができた。	・引き続き、学校全体で、生徒主体の 教育活動を推進していく。
		〔成果指標〕 私は、生徒会活動や学級活動、部活 動において、仲間と協働し、自分たちで 考えて行動することができている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が80%以上	生徒	私は、仲間と協働して主体的に生徒会活動や学級活動、部活動に取り組むことが 〔1〕 できている。 〔2〕 だいたいできている。 〔3〕 あまりできていない。 〔4〕 全くできていない。	1年 97.4 2年 95.9 3年 98.3 全体 97.1		・学校祭後の生徒アンケートでは 97.4%が主体的に取り組めたと回答 している。	・引き続き、生徒会役員発案の生徒 会活動を推進していく。
		〔満足度指標〕 私の子どもは、自ら考え行動することが できている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が70%	保護者	私の子どもは、自ら考え行動することが 〔1〕 できていると感じる。 〔2〕 だいたいできていると感じる。 〔3〕 あまりできていないと感じる。 〔4〕 全くできていないと感じる。	1年 86.3 2年 83.3 3年 72.4 全体 80.7		・生徒に比べ保護者の評価は17ポイ ント低い。特に3年生では、保護者 の期待度も上がるため、評価が低くな ると思われる。	・各通信等において、家庭においても 生徒が主体的に行動できるよう啓発し ていく。

項目	重点目標	評価の観点・目標指数	回答者	判断基準	R4 %	R3 %	成果と課題	改善策・向上策
2.社会への 貢献心と自 立性の伸 張	生徒会活動や 学級活動の充 実を図り、生 徒の自治的活 動を推進す る。	(取組指標) 生徒の自ら考え行動する態度を育成す るために、自治的活動や自らの生活を考 える活動を推進する。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	教職員	私は、生徒の自ら考え行動する態度を育成するために、自治的活動や自らの生活を 考える活動の推進を 〔1〕 積極的に行っている。 〔2〕 ある程度行っている。 〔3〕 あまり行っていない。 〔4〕 全く行っていない。	100	100	・「生徒心得」改正に向けての取り組 みが生徒の自治的な活動になるよ う、全教職員で共有しながら進めるこ とができた。	・生徒が自治的に学校生活の課題を 見付け、解決していけるような教育活 動の在り方を、全教職員で考え、議 論していく。
		(成果指標) 私は、ルールの意味や自らのあるべき姿 を考えながら行動している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が80%以上	生 徒	私は、ルールの意味や自らのあるべき姿を考えながら行動することが 〔1〕 できている。 〔2〕 だいたいできている。 〔3〕 あまりできていない。 〔4〕 全くできていない。	1年 98.2 2年 96.7 3年 95.7 全体 96.9	1年 96.9 2年 94.6 3年 97.5 全体 96.4	・「生徒心得」を学級会での議論を基 本に進めたことにより、ルールに対して 自ら考えた実感が持てたのではない か。	・引き続き、生徒による議論を基本 に、生徒自らがルールについて考えられ るよう支援する。
		(満足度指標) 私の子どもは、ルールの意味や自らのある べき姿を考えながら行動している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が70%以上	保護者	私の子どもは、ルールの意味や自らのあるべき姿を考えながら行動することが 〔1〕 できていると感じる。 〔2〕 だいたいできていると感じる。 〔3〕 あまりできていないと感じる。 〔4〕 全くできていないと感じる。	1年 95.5 2年 88.1 3年 82.8 全体 88.1	1年 83.6 2年 88.5 3年 82.5 全体 84.0	・「生徒心得」改正についての保護者 説明会を実施し、生徒の自治的活 動を推進する意義を発信した。 ・学年が上がるにつれ保護者の期待 度も上がるため、評価も低くなると思 われる。	・ルールについて生徒が議論した経緯 等を、保護者に向けて発信していく。

項目	重点目標	評価の観点・目標指数	回答者	判断基準	R4 %	R3 %	成果と課題	改善策・向上策
3.信頼される学校づくり	ふるさと教育の推進に努める。	(取組指標) ふるさと「あわら」に誇りと愛着をもち、知識を深め、郷土のすばらしさを認識できるように取り組む。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	教職員	私は、生徒がふるさと「あわら」に誇りと愛着をもつよう、ふるさと教育の推進を 〔1〕 積極的に行っている。 〔2〕 ある程度行っている。 〔3〕 あまり行っていない。 〔4〕 全く行っていない。	96.5	93.1	前年度同様、教員のふるさと教育に対する意識は高い。	今後も、総合的な学習の時間で、地域の課題から自分の課題を設定し、探究する活動を継続する。
		(成果指標) 私は、ふるさと「あわら」に誇りと愛着をもっている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	生徒	私は、ふるさと「あわら」に誇りと愛着を 〔1〕 もっている。 〔2〕 ある程度もっている。 〔3〕 あまりもっていない。 〔4〕 全くもっていない。	1年 93.8 2年 87.7 3年 87.1 全体 89.5	1年 86.3 2年 89.1 3年 75.6 全体 83.6	前年度と比べ、1年生の数値が高く、全体としてわずかに数値が上昇しているが、それでも目標値には達していない。	「愛着を(あまり)もっていない」という生徒も、さまざまな課題意識をもっていると思われる。どのような考えも尊重しつつ、地域の課題を明確にし、どうすれば解決できるのか、という視点で学習に取り組めるよう支援していく。
		(満足度指標) 私の子どもは、ふるさと「あわら」に興味をもっている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が70%以上	保護者	私の子どもは、ふるさと「あわら」について 〔1〕 かなり興味をもっていると感じる。 〔2〕 ある程度興味をもっていると感じる。 〔3〕 あまり興味をもっていないと感じる。 〔4〕 全く興味をもっていないと感じる。	1年 81.8 2年 50.0 3年 51.7 全体 58.1	1年 46.9 2年 54.3 3年 46.3 全体 48.8	1学年は、保護者も子どもがふるさとへの愛着があると感じている一方、2・3年生の保護者は、そこまで感じていない。	長期休業等に、親子で協力して、ふるさとの課題を探究できるような学習を各学年で積極的に取り入れる。
3.信頼される学校づくり	地域の人と関わる体験活動の充実を図る。	(取組指標) 生徒が地域の行事やボランティア活動、資源回収などに積極的に参加するよう働きかけを行う。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	教職員	私は、生徒が地域の行事やボランティア活動、資源回収などに積極的に参加するよう働きかけを 〔1〕 行っている。 〔2〕 ある程度行っている。 〔3〕 あまり行わなかった。 〔4〕 全く行わなかった。	93.1	96.5	・コロナ禍でもあり、資源回収以外のボランティア活動を積極的には推進することができなかったことが、100%にならなかった理由ではないか。	・「地域探究」活動等と関連させて生徒が地域の貢献活動に参画できるよう、総合的な学習をコーディネートする。
		(成果指標) 私は、地域の行事やボランティア活動、資源回収などに積極的に参加している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	生徒	私は、地域の行事やボランティア活動、資源回収などに 〔1〕 積極的に参加している。 〔2〕 ある程度参加している。 〔3〕 あまり参加していない。 〔4〕 全く参加していない。	1年 82.9 2年 77.5 3年 84.4 全体 81.6	1年 87.8 2年 81.0 3年 87.2 全体 85.6	・やや低下した。資源回収が年1回に減り、昨年までは2回のうち1回は参加できていた生徒が、今年度は1回も参加できなかったのかもしれない。	・地域には、自分たちが参画できるどのような貢献活動があるのか、生徒が考えたり調べたりするような学習を計画する。
		(満足度指標) 私の子どもは、地域の行事やボランティア活動、資源回収などに積極的に参加している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が80%以上	保護者	私の子どもは、地域の行事やボランティア活動、資源回収などに 〔1〕 積極的に参加している。 〔2〕 ある程度参加している。 〔3〕 あまり参加していない。 〔4〕 全く参加していない。	1年 77.2 2年 81.0 3年 72.4 全体 77.4	1年 85.7 2年 85.7 3年 83.0 全体 84.8	・3年生保護者の評価が昨年度2年生時と比べて－13ポイントと大きく低下した。最高学年となり保護者の期待度が高くなることが理由の一つと考えられる。	・探究学習の経過を学年通信等で発信するとともに、あわら市民として何ができるかを、家庭でも考えてもらえるよう啓発していく。